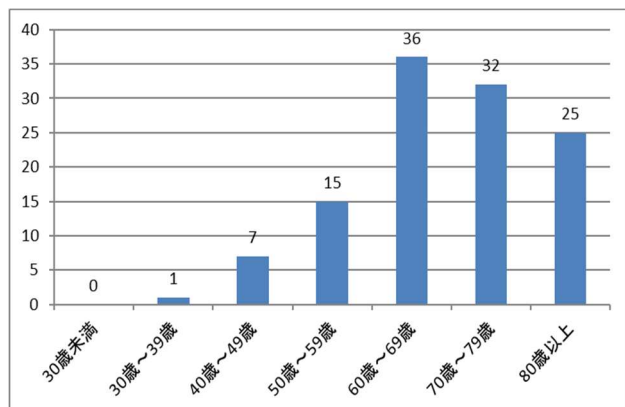
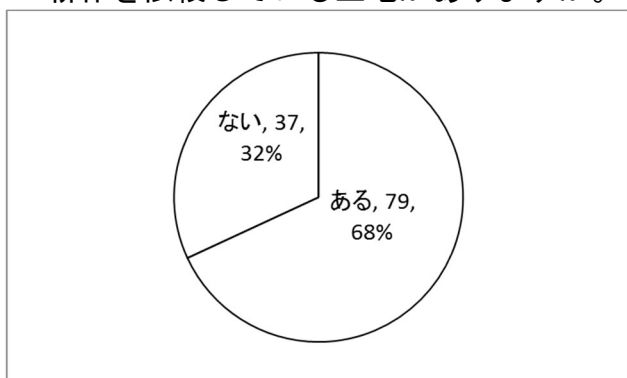


袋井南地区

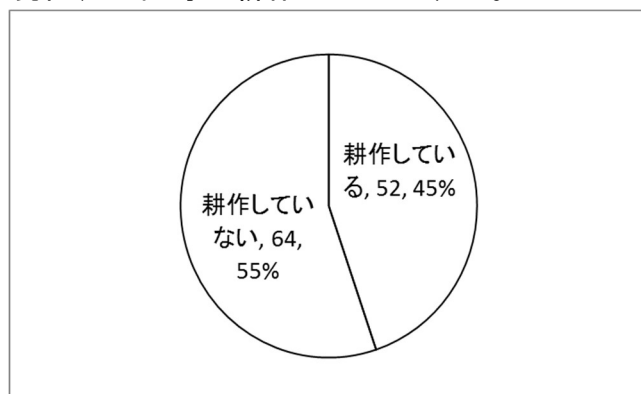
回答年齢



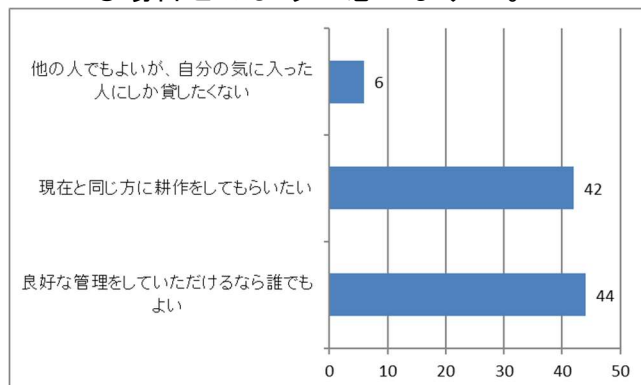
Q2-1 所有農地について 耕作を依頼している土地がありますか。



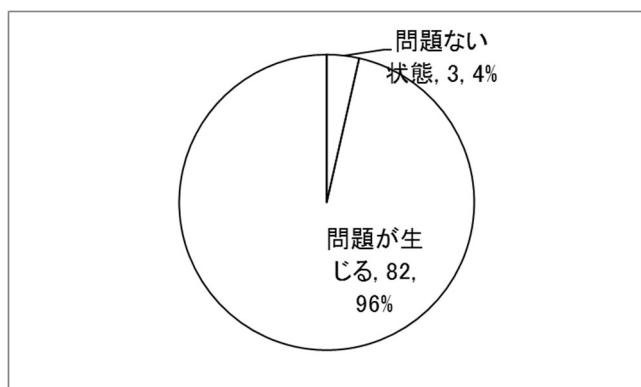
Q1 ご自身の営農状況について 現在、ご自身で耕作していますか。



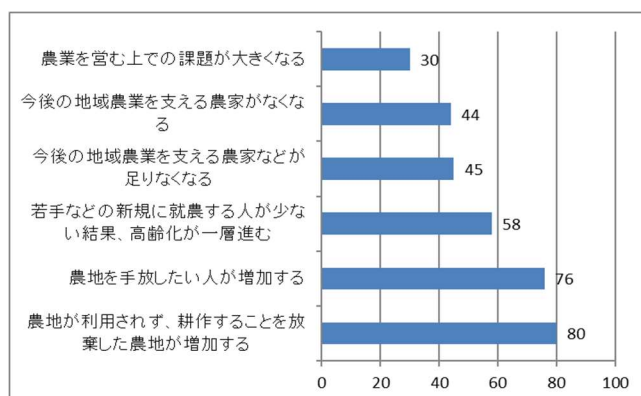
Q2-2 今後、集約化にあたり借り手を変更する場合どのように思いますか。



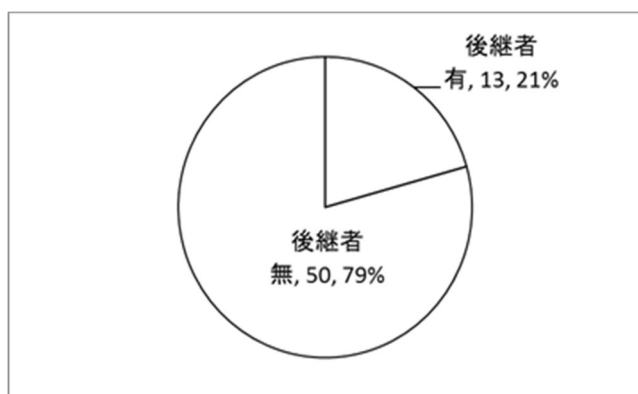
Q5-1 あなたの地域の農業(人と農地)は 10年後にどのようになっていると思われ ますか。



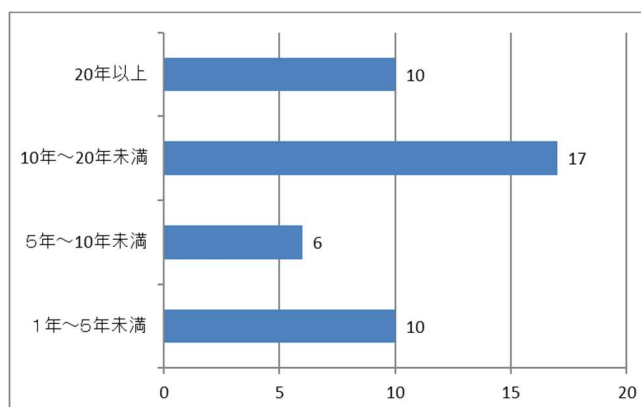
Q5-2 問題と思われる課題



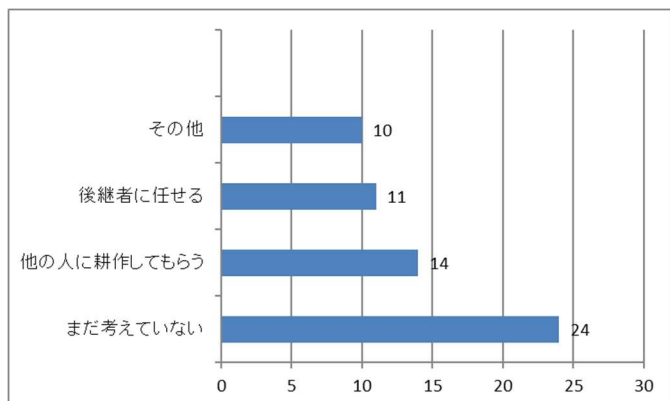
Q7-1 後継者の有無



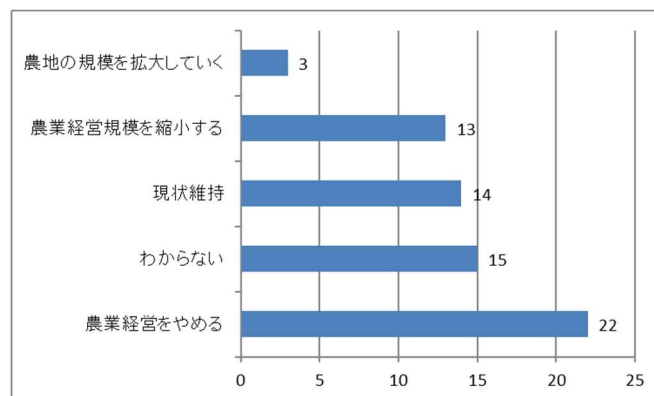
Q7-2 あと何年耕作を続けるとお考えですか。



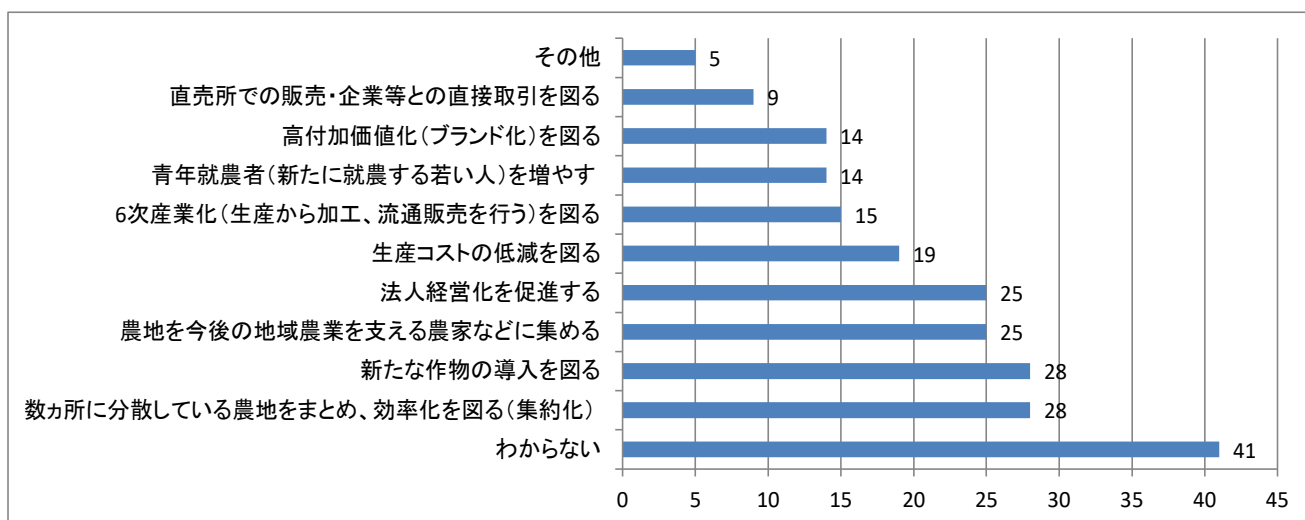
Q7-3 今後、耕作を続けられなくなった場合
どうしますか。



Q9 今後（10年後）のあなた自身の経営方
針を教えてください。



Q10 今後の（10年後）の地域農業について、どのような取り組みを行い、発展させていく
必要があると思いますか。



袋井南地区農業推進委員会 アンケート結果

【対象者】 177人

【回答者】 118人

【耕作地区】 袋井西地区 4人 袋井南地区 115人 袋井東地区 6人
笠原地区 4人 浅羽東地区 2人 浅羽西地区 1人
浅羽上地区 3人

【性別】 男性 102人 女性 16人

【職業】 専業農業者 36人 兼業農業者 18人 農業以外 60人

【年齢】 30歳未満 0人 30歳～39歳 1人 40歳～49歳 7人
50歳～59歳 15人 60歳～69歳 36人 70歳～79歳 32人
80歳以上 25人

【耕作面積】 ①自分で耕作していない 64人
②3,000㎡未満 17人 ③3,000㎡～10,000㎡未満 16人
④10,000㎡～100,000㎡未満 17人 ⑤100,000㎡以上 4人

【設問1】ご自身の営農状況について

1 現在、ご自身で耕作していますか。

耕作している 52人 耕作していない 64人

【設問2】所有農地について

1 耕作を依頼している土地がありますか。

ある 79人 ない 37人

2 今後、集約化にあたり借り手を変更する場合どのように思いますか。

- ① 現在と同じ方に耕作をしてもらいたい。 42人
- ② 他の人でもよいが、自分の気に入った人にしか貸したくない。 6人
- ③ 良好な管理をしていただけるなら誰でもよい。 44人

【設問3】 今後、所有している農地について、どのように考えておられますか。(未耕作者)

- | | |
|----------------------|-----|
| ① 今後も農地として、耕作してもらおう。 | 23人 |
| ② 農地以外の用途に利用していく。 | 25人 |
| ③ その他 | 18人 |

【設問4】 集約化に向けた課題 地域内で年貢、小作料の統一が必要か

- | | |
|-------------------------------|-----|
| ① 統一すべき (例 10a 当たり 10,000 円) | 24人 |
| ② 農地等の条件が違うため、統一はできない。 | 65人 |
| ③ その他 | 15人 |

【設問5】 あなたの地域の農業(人と農地)は 10 年後にどのようになっていると思いますか。

- | | |
|-------------------------------------|-----|
| 1 問題ない状態 (各世代の農業者によって持続的な農業が営まれている) | 3人 |
| 2 問題が生じる。 | 82人 |

(問題と思われる課題を回答してください[複数回答可])

- | | |
|---------------------------------|-----|
| ① 農地が利用されず、耕作することを放棄した農地が増加する。 | 80人 |
| ② 今後の地域農業を支える農家がなくなる。 | 44人 |
| ③ 今後の地域農業を支える農家などが足りなくなる。 | 45人 |
| ④ 若手などの新規に就農する人が少ない結果、高齢化が一層進む。 | 58人 |
| ⑤ 農地を手放したい人が増加する。 | 76人 |
| ⑥ 農業を営む上での課題が大きくなる。(例：近隣からの苦情等) | 30人 |

【設問6】 耕作することが困難となった場合 貸出方法 (複数回答可) 農地を貸し出すことになった場合について、どのような方法が良いと考えていますか。

- | | |
|------------------------------|-----|
| ① 貸し手と借り手相対で行う。(利用権設定事業) | 44人 |
| ② 農地中間管理機構が仲介して行う。(農地中間管理事業) | 42人 |

【設問7】 耕作している方にお聞きします。現在、後継者の目処はついていますか。

1 後継者の有無

- ① 有 13人
- ② 無 50人

2 あと何年耕作を続けるとお考えですか。

- 1年～5年未満 10人
- 5年～10年未満 6人
- 10年～20年未満 17人
- 20年以上 10人

3 今後、耕作を続けられなくなった場合はどうしますか。

- ① 後継者に任せる。 11人
- ② 他の人に耕作してもらおう。 14人
- ③ まだ考えていない。 24人
- ④ その他 10人

【設問8】 耕作している方にお聞きいたします。

現在、あなた自身の経営は、地域の中でどういう位置づけだと思えますか。

- ① 地域の中心となる農家であり、今後も中心になると思う。 3人
- ② 地域の中心となる農家であるが、将来的には中心にならないと思う。 4人
- ③ 今は地域の中心となる農家ではないが、将来的には目指していく考え。 4人
- ④ 今は地域の中心となる農家ではなく、将来的にも考えていない。 43人

【設問9】 耕作している方にお聞きします。

今後（10年後）のあなた自身の経営方針を教えてください。

- ① 農地の規模を拡大していく。 3人
- ② 現状維持 14人
- ③ 農業経営規模を縮小する。 13人
- ④ 農業経営をやめる。 22人

⑤ わからない。 15人

Q9で規模を縮小する又は農業経営をやめると答えた方にお聞きします。

① 農地は今後も（貸すなど）農地として残していきたい。 9人

② 農地以外の用途で活用したい。 25人

【設問10】 今後の（10年後）地域農業について、どのような取組を行い、発展させていく必要があると思いますか。 [複数回答可]

① 農地を今後の地域農業を支える農家などに集める。 31人

② 数カ所に分散している農地をまとめ、効率化を図る。 28人

③ 生産コストの低減を図る。 19人

④ 新たな作物の導入を図る。 28人

⑤ 直売所での販売・企業等との直接取引を図る。 9人

⑥ 6次産業化（生産から加工、流通販売を行う）を図る。 15人

⑦ 高付加価値化（ブランド化）を図る。 14人

⑧ 青年就農者（新たに就農する若い人）を増やす。 14人

⑨ 法人経営化を促進する。 25人

⑩ その他 5人

⑪ わからない。 41人

◎ご意見等

- ・ 獣の被害が広範囲になり困っている。
- ・ 茶所として繁栄してきたので荒らしたくない。
- ・ 宅地化が進み、農作業の音・臭いなどの苦情が増加し、現状に耐えていけるか
- ・ お茶は生産過剰のため対策が必要。
- ・ 太陽光施設のように下に作物を作る。
- ・ 非農家の隣家からのクレームが多いので困る。
- ・ 大雨時の田の水利調整も重要。
- ・ 土地は残していきたい。
- ・ 農地集約ではなく、農地以外の利用も検討。
- ・ 農地は守るべき。
- ・ 土地の境界線が分からない。
- ・ 獣害で収穫作物はほとんどない。
- ・ 農地の一部は、手放したい。
- ・ 農業振興地域なので将来不安。
- ・ お茶以外の作物の提案をしてもらいたい。

◎その他のご意見

- ・ 農作物の販売ルートの確保。
- ・ 必要に応じて、土地売買を可能に。
- ・ 農道確保と公の建物周辺の除草作業。
- ・ 茶畑の隣りに住宅を建てられ、農薬の散布がやりずらくなった。
- ・ パイロット事業の賦課金が高くて、年金生活だけでは生活できない。
- ・ 後継者もいない。
- ・ 解散できない組織の受益地になっている土地が多く、行政も介入して解散させて欲しい。
- ・ 宅地化が進まないように、農業振興地域（農用地区域）の指定を外さないで欲しい。
- ・ 農地以外の用途。
- ・ 土地改良区を解散して欲しい。
- ・ 茶畑の耕作料は無料でいい。
- ・ 農業政策の転換・税制優遇・規制緩和・若い後継者。
- ・ 畑かん事業の利用はなくても負担金があり、大きな負担になっている。
- ・ 農業だけでは収入が少ないため、若い人が農業をやるのは難しい。
- ・ 茶については価格が安くて、採算が合わないため、農地以外の利用がいい。
- ・ 街化調整区域を解除して欲しい。
- ・ 農家では生計が難しい。
- ・ 後継者不足。

- ・借手がいればすぐにでも借りてほしい。
- ・現在の茶況を見る限り、存続困難。
- ・耕作者が少ないので、宅地にして売りたい。
- ・農地放棄をすると雑草増加・景観が悪い等の苦情増加。
- ・生産法人で、適地適作。
- ・大規模事業は援助が必要。
- ・住宅地周辺の土地を見直す。
- ・作物の価格が安いため、経営難。
- ・農業の初期投資が多額になるため踏み出せない（儲かる農業）。
- ・耕作放棄地の早急な対策が必要。
- ・アンケート結果を知らせて欲しい。
- ・お茶に代わる新しい作物はないか？
- ・農業で生活していける収入がないと後継者は育たない。
- ・野生動物の棲家になる。
- ・雑木山林が青地になっている。
- ・茶畑でも青地の畑もある。
- ・茶業界の体質の悪さを改善して欲しい。
- ・農業所得の著しい減少。
- ・農業収入の悪化。
- ・高齢化が進み、耕作放棄地が増える。
- ・茶と複合経営。
- ・茶の経営に若者が消極的、魅力ある農業をPRすべき。
- ・パイプラインの整備。
- ・土地改良による圃場の大型化。
- ・農業だけでは生計維持できない。
- ・売買希望。
- ・耕作の小作料は、要求しない。
- ・区画整理をやったので本格的耕作はしていないため、アンケートは該当しない。
- ・猪の被害があり、作物を作れない状況。
- ・宅地化が進んでいるので、将来はわからない。
- ・農家が作物販売をし、収入を得ることでやる気が出る。
- ・部農会委任（小野田街づくり委員会）。
- ・第1種低層住居専用地域なので、農業に適さない。
- ・売れるなら、土地を売りたい。
- ・今後の将来が不安。
- ・集約化を図り、無償もしくは定額にて農業者に提供する。
- ・若い人達が安心して働きやすい法人経営化　販売所を作り、特産物など直売する。
- ・上石野地区は住宅化が進み、農地が段々少なくなる傾向。
- ・国の補助事業などの足かせが土地の有効利用を困難にしている。

- ・後継者がいないので手放すしかない。
- ・若い就農者が増えることを願う。
- ・茶価低迷で借地人から土地を返され農機具も処分したため、耕作できないので困っている。
- ・愛野地区は、農推地域とは言えない。